



伊豆特産のスジアオノリの養殖試験

メタン発酵を用いて食品廃棄物処理を進める研究の一環として、副産物の消化液を液肥として伊豆特産のスジアオノリの陸上養殖に利用する研究を行っています。

実験規模の陸上養殖として、1.5 トン水槽で液肥添加区と無添加区と比較したところ、添加区では無添加区と比べ、3倍程度の収穫量を示しました。また、色彩、香りも無添加と比べ優れており、海水にメタン発酵の消化液を添加する効果が明らかとなってきました。



← 1.5 トン水槽での試験養殖

液肥添加区(左)と無添加区(右)の製品の違い→



【解説】スジアオノリは松崎町の河川汽水域に生息する海藻。「松崎川のり」としてしずおか食セレクションに認定されている。冬季に採取され、濃い緑の色彩と香りが特徴。近年収穫量は減少傾向にあり、特に今冬は不漁で大問題となった。

サクラマス海面養殖試験終了

定置漁業会社である網代漁業(株)は、昨年12月から5月末まで、水産技術研究所の指導の下、網代湾でサクラマスの試験養殖を行ってきました。4月中旬より水揚げを開始し、出荷サイズは1～1.5kgが主体、大きくても2kgです。地元飲食店等を中心に、4月は約1,000尾を試験出荷しました。網代漁業(株)は今年度もサクラマスの試験養殖を行う予定で、当所も引き続き指導を続けていきたいと思えます。



←生簀内のサクラマス

静岡県定置漁業協会総会でブリ資源について講演

5月8日に伊東市で開催された静岡県定置漁業協会の総会で、ブリ資源の動向について講演を行いました。今年1月から4月までの定置網に入網した銘柄ぶりは7万尾余りで過去50年間の最高を記録しました。国が行う資源評価でも高位・増加とされており、今後も高水準の漁獲が期待できると考えられます。



【解説】定置漁業：大型の網(定置網)を岸近くの海中に固定して行う漁業。待つ漁業と呼ばれ、漁獲種が多様、船の燃料費が少ないなどの特性を持つ。従事する若者が近年増えており、地域創生の一角として注目されている。

- 6月の予定** ・マダイの中間育成が始まります。
- ・アワビ稚貝の生息場所を評価するための潜水調査を行います。
 - ・キンメダイ資源管理に関する漁業者代表部会が東京で行われます。
 - ・水産物と農産物のコラボ加工品(しわめ・野ぶき佃煮風商品)の試供を始めます。

会場には、自由に見学できる展示施設があります。

6月6日伊豆漁業協同組合下田魚市場で水産祭りが開かれます。